

市長記者会見（平成28年度予算（案）概要）

日 時：平成28年2月22日（月）午前 11時～11時30分

場 所：小杉庁舎401会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、射水CATV、エフエムいみず、庄東タイムス

当局出席者：市長、市長政策室長、行政管理部長、市長政策室次長、行政管理部次長、財政課長、財政課財政係長、財政課資金・調査係長、まちづくり課長（司会）

質疑応答の概要

Q1. 平成28年度予算について、少子高齢化対策や人口の自然増・社会増を重点的に対処していくというテーマが見て取れるが、目玉となる事業は何か。

A1. 重点事業全部が目玉だと思っているが、あえて選ぶとすれば、今回の予算編成の考え方として、今までの「子育てするなら射水」「学ぶなら射水」という本市のまちづくりの強みをさらに伸ばしていくという一方でその中で築き上げてきた自然増対策の効果を定着させていくという観点から、新たに人口の社会増対策にも重点的な予算配分をしたというのが今回の目玉だと捉えている。自然増対策の目玉としては、第2子の保育料無料化や婚活支援、大門庁舎の跡地を活用した子ども子育て総合支援施設の整備といった対策が一つの目玉である。また、その自然増の効果の定着を図り、射水で生まれ育った若い人たちにしっかりと戻ってきて定着してもらうための社会増対策として、奨学金の一部を助成する「明日の射水を担う若者助成金」や、新婚家庭・子育て世帯等転入者へ家賃を補助する「定住促進家賃補助事業」を目玉として掲げながらしっかり人口増の定着を図っていきたい。（市長）

Q2-1. 新規事業の「出生第2子及びひとり親家庭等の保育料無料化」は、県内では滑川市がいち早く導入を発表しているが、射水市が所得制限を設けた理由を聞かせてほしい。

A2-1. 「出生第2子及びひとり親家庭等の保育料無料化」について、滑川市が予算編成の発表の中で所得制限を設けずに実施することを発表した。射水市は今回所得制限を設けたが、射水市に関しては様々なアンケート

結果や実際の数字を見ても第2子の壁は基本的にはないだろうと捉えている。しかしながら、貧困家庭等が問題になっている中で経済的な理由によって子育てに何等かの障がいがあるとするならばしっかり対応していかなければならない。そういったことから今回所得制限を設けた形で第2子及びひとり親家庭等の保育料無料化を実施したい。(市長)

Q2-2. 自然増や社会増対策を予算化すると、短期的な予算付けではなく、ある程度長期的な事業にしなければ10年、20年先の効果が出ないのではないかという識者の意見もあるが、これについては今後どれくらい先を見据えた継続的な事業にしようと考えているのか。

A2-2. まず、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組については、策定にあたって人口ビジョン等も設定しており、その人口ビジョンの中では2060年までの人口を推計している。このままいくと2060年の段階で射水市の人口はだいたい6万人ぐらいになってしまうが、これを地方創生の取組をすることで7万2千人を確保、維持しようという目標を設定している。この実現に向けて努力を続けていかなければいけないと考えているが、現在の総合戦略の計画期間が5年間と設定されているので、現在考えている様々な事業については5年を一つの区切りと考えながら設定しているところである。しかし、人口減の克服は射水市にとっても今後の一つの大きな課題として挙げられるので、取組についてはしっかり継続するものは継続する、見直しを図るものは見直しを図りながら、効果的な事業を今後もしっかり実施していきたい。(市長)

Q3. 昨年秋の予算編成方針の発表の段階で4億円程の財源不足が見込まれるという話だったが、事務事業見直しや圧縮、基金の取崩し等あると思うが、具体的にどのような形で補ったのか聞かせてほしい。

A3. 編成にあたってはまず、昨年度に引き続きマイナス5パーセントシーリングを実施した。加えて全ての事務事業について優先順位を再度厳しく洗い直し、選択と集中に取り組んだ結果、最終的な財源不足は約3億3千万円まで圧縮をした。この約3億3千万円については基金の取崩しによって財源を確保したところである。(市長)

Q4. 環境に関する政策欄に記載のある斎場整備事業について、具体的にどのようなことに取り組むか教えてほしい。

A4. 斎場整備については、これまでも現在地での整備が面積の関係上難しいということから、新たな敷地の候補選定を続けている。残念ながら決定には至っておらず、27年度においても基本設計の予算を計上していたが行できなかったことから3月補正で予算を一度落とし、28年度審議に新たに計上するところである。早期の事業着手に向けてスピード感を持って取り組んでいきたいと思うが、ナーバスな部分を含む課題でもあるので慎重にしっかりと一つ一つ確認をしながら進められればと思っている。(市長)

Q5. サクラマスのふ化施設を旧大門リサイクルセンターに28年度中に作る話があったと思う。今回の予算には組み込まれていないが、どのようになっているのか。

A5. サクラマスの予算については、地方創生の加速化交付金で対応したいと考えており、3月補正で上げたいと思っている。事業そのものは3月補正予算で対応させていただいてそれからの事業になるので、仕事は28年度春以降となるが予算で言うと27年度の予算として計上されるので今回の28年度予算には入っていない。(市長)

Q6. 「保育料算定に係るみなし寡婦控除の適用」は、非婚のシングルマザーやシングルファザーを含むひとり親家庭全てに適用されるのか。

A6. そのとおりである。(市長)

Q7. 地域おこし協力隊について、配置を決められた理由と現在どこまで進んでいるかを教えてほしい。

A7. 地域おこし協力隊については、全国的にも様々な自治体で協力隊は地域課題の改善や地域の活性化で活躍している。射水市においても、特に内川を中心としたエリアが非常に注目を集めながら魅力ある地域として評価をいただいているが、このエリアでも高齢化や人口の減少が進み、空き家も増えているということから地域おこし協力隊を配置し、空き家の有効活用や情報発信といった取組をしてもらいたいという思いから設置を決めた。現在、募集、面接を行い、春から一人来ていただくという状況である。(市長)